



家事代行先で
知り合った先生が
オレで技いてました!?

～告白を保留していたら
先生が自慰している現場
に居合わせました～

キャラクター紹介



おむら りん
和村 凛

主人公。二十六歳。

家事代行のバイトをしている。

先生に告白されたけど、クビにされたくなくて告白をスルーしていた。料理と掃除が得意。



しろみね ゆづき

城峯 弓月 先生

大学の非常勤講師。三十六歳。

リモートワークで家にいることが多い。

性格は穏やかで優しい。顔も良い。

ただし部屋は汚い。

*プロローグ

「先生…ッ♡」

「ダメですよ、凜さん。そんなの触ったら……それ、ボクがさっきチンコ突っ込んでたヤツですよ？」

俺の手の中にあったオナホは水を含んで、グポポッ♡グポッ♡といやらしい音をたてる。

俺は洗面所で先生の使用済みのオナホを洗いながら、後ろから先生に抱きしめられていた。

ゴリッとしたものが俺の尻に当たる。先生の固くなった股間が俺の尻の割れ目をゴリゴリッ♡と刺激した。

「ッ♡」

「もう、我慢できないです。ずっと、あなたを抱きたかった」

先生は俺に顔を近づけると、俺にキスをしてきた。
先生は俺を床へ押し倒すと、自身のズボンを降ろした。
そこにはバッキバキに起立したチンポがあり、俺は思
わず生唾を飲み込んだ。

*始まり

「ピンポーン！」とベルを鳴らす。すると、少しし
てからオートロックの扉がガチャリと開いて、ふわふ
わの髪をした男性がにこやかに出てきた。

「わあ。そろそろ来る頃だと思ってましたあ〜。どう
ぞどうぞ。今日も一日よろしくお願ひしまーす」

「はあ、いえ。本日も宜しくお願ひします」

やけに間延びした声でにこやかに出迎えてきた男
はこの家の家主であり、雇用主だ。お名前は「城峯（し